



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：ハマースのミシュアル政治局長再選

4月1日、ハマースはカイロのホテルで政治局・シューラー議会による選挙を行い、政治局長にミシュアル現政治局長を再選した。全会一致の決定とされたが、ガザのハニーヤ「首相」とマルズーク政治局次長には立候補の意思があったが、エジプトなどに説得されたとの報道もある。ハマースは、2日に選挙結果を公式に発表した。

ハマースの政治局長ポストの選挙については、2012年の5月末頃から報道で取りざたされるようになった。2012年後半の半年間になされた報道では、ミシュアル政治局長は次期選挙には立候補しない意向であり、ガザのハニーヤ「首相」とマルズーク政治局次長が立候補の意向を示しているとするものだった。4月1日の段階でも、ハニーヤとマルズークには立候補の意思があったが説得された可能性もある。ミシュアル政治局長は、エジプト、カタルなどが後押したと報道されている。

在外ハマースは、シリアのダマスカスを拠点に活動してきたが、シリア内での戦闘が激化した後、ハマースはシリア国民支持の立場を取った。そのため、2011年末から2012年初頭にかけてハマース幹部らがダマスカスを離れたと報道されている。ミシュアル政治局長は、現在カタルに居住しているようである。

ハマースの意思決定プロセスはきわめて不透明である。今回の政治局長選挙も内情はよくわからない。それでも今回の政治局長選挙では、わずかであるが内部決定過程の透明性が増したといえるかもしれない。

(中島主席研究員)